

## e-ビーフNEWS 北の牧場から

November 2018

## 十勝の晩秋

抜けるような青空に朝はブルッ。温度計は氷点下に初霜初氷を観測。来ましたね来ましたねこの寒さ実感します。十勝を囲む山々は濃紺の衣ををまとい山々の輪郭がはっきり見えます。先日牧場の作業中に「クワークワーク」と懐かしい鳴き声が天空から聞こえてきました。案の定、白鳥50羽からなる大群が「へ」の字になって南に向かい飛んでゆきました。先日、デントコーンを刈り取った畑に何か白い個体がそこいら中にうごめいていました。良く見ると白鳥の大群が羽を休めて落ち穂拾い。長旅の一時の休息ですね。

牧場の収穫もほぼ終わりましたが、草もコーンも例年の7割程度と最悪。越冬のエサ不足が心配されます。畑屋さんも苦戦。なんせ収量取れずイモ、ニンジン、豆は2、3割減。何という年だと眩しながらも、とにかく冬支度と気が競る毎日です。



## 活動のお知らせ

- 10月31日(水)13時～11月1日(木) 北斗市農業振興センター(函館駅まで車で20分)第23回北海道肉牛研究会大会
- ・大会内容(仮題) 基調講演 「日本版畜産GAPの概要と肉牛農場の取組み」  
一般財団法人日本GAP協会基準認証部畜産グループ 朝日光久氏
  - ・事例紹介 「日本版GAPと農場HACCPの取得について」大野ファーム大野泰裕氏 ほか 現地検討会 あか牛生産農家
- 11月8日(木) 10:00～ 帯広 北海道畜産公社 第8回北海道肉専用種枝肉共助会
- 11月8日(木) 13:00～ 帯広 帯広畜産大学 第15回資源循環型肉牛生産シンポジウム 2018
- ・内容 基調講演 「家畜の福祉と肉牛生産」(株)グッドテーブルズ 山本謙治社長
  - 話題提供1 「欧州諸国の有機畜産とアニマルウェルフェア関連法制との位置付け」立教大学経済学部 大山利男准教授
  - 話題提供2 「アニマルウェルフェアの評価基準」帯広畜産大学 瀬尾哲也准教授
  - 話題提供3 「有機畜産の理想と現実」北里大学獣医学部附属FSC八雲牧場 小野泰係長
  - 話題提供4 「大自然を家庭の食卓に『ボーンブロス・八雲』について」公式通販ショップルルド 諸江栄美代表
  - 話題提供5 「赤身評価の最近情報」帯広畜産大学 口田圭吾教授
- パネルディスカッション パネラー:講演者、消費者代表  
意見交換会 eビーふ大焼肉すきやきパーティー 帯広畜産大学 道遥舎 口田研究室協力 参加費/3,500

## NEWSばか読み

- カナダ NAFTAで合意 米国に乳製品で譲歩 10/2:米国の思惑反映
- 中国 アフリカ豚コレラ地域拡大33ヶ所35万頭 10/2:防疫体制強化
- 道総研 放牧中の子牛に防寒シェルターで体重減防ぐ 10/3:少しの工夫
- 農林水産省 子牛補給金制度の算定方式の見直しで基準下げ 10/4:適正化
- 政府 65才以上雇用で法改正 高齢者活躍促す 10/4:どこまで働くの
- スーパー都心重点で出店攻勢 駅近立地奪い合い 10/6:人の流れは中心に
- 築地のネズミ 拡散の恐れ 10/6:一緒に連れて行ってくれ
- イオン 3-8月半期連結で2期連続1割増総合スーパー業績改善  
10/7:PB進化
- 築地「世界一の魚市場」豊洲へ移転 83年に幕 10/7:お疲れさまでした
- IMF世界成長3.7%に減速 貿易摩擦で下方修正 10/8:トランプ引き直し
- 農林水産省 環境保全型直接払いで生物多様性・温暖化防止に効果  
10/8:検証
- 外国人労働者(単純労働含む)に永住資格 入管法改正案 10/12:人種多様性
- 山形県高校生研究で超音波で有害獣撃退 10/12:やったね若者
- ヤマト運輸 米社と共同開発で商用余等空飛ぶトラック実用化へ  
10/12:ドローン進化
- 国連 過去20年間の自然災害で世界損失330兆円 10/12:対策実感
- ユニー ドンキーの子会社に 10/12:新参が老舗を食う

- インバウンド訪日客 帰国後もリーピーターで輸出拡大  
10/12:お客様は大切に
- 九電 原発稼働 需給バランス調整で再エネ一時停止 10/12:国策違反
- ローソン新店舗で運営一人化へ試験開始 10/12:駆け込みできない
- 台湾輸出で牛肉再開1年41億円売上急拡大 10/15:多様性部位評価
- 18年度飼料米作付面積が制度以来の13%減 10/15:まだ安定せず
- JASマークの表示統一 10/20:富士山と日の丸 意図は輸出
- 農林水産省 農業情報設計社(帯広)に農機具製造参入に支援  
10/20:スマート化に
- 欧州金融 石炭火力事業者に保険受託停止 10/21:悪のレッテル
- 新千歳動検で中国人持ち込みソーセージからアフリカ豚コレラ検出  
10/23:おいおい
- 中国産飼料用稲わらの一部地域からの輸入停止  
10/25:国産稲わら利用拡大急ごう
- 静岡県立農業大学が専門職大学へ移行 10/25:大学の実用化賛成
- JA全農パールライス工場で害虫発見 中国向け輸出停止  
10/25:輸出もリスク
- 各国の人の糞の中にもマイクロプラ検出 10/25:汚染は地球全体に
- バイオ発電などの燃料用木質ペレットの輸入が8割 10/26:本当にバイオなの
- 中国 原発事故後の停止日本食品の解除検討 10/27:農畜産物全てして
- 企業の災害損出 今年度1000億円超す 10/28:リスク分散策

## 東京直近NEWS (10/30 Shi-REPORT)

**ホルス** 11月枝肉相場は高値維持。

頭数は前年割れが続いており、産地での取扱いも減少してきている。  
販売は10月まではかなり荷動き悪く、特に赤身の鈍化他部位も渋く  
唯一カタロースのみ引き合いがあるレベル。気温低下からスライスや煮  
込みにシフト気配も、スネも引き合い弱い。11月以降の販売回復に期待  
も、頭数不足から末端もホルスの要求が薄くなってきていると感じる。

**経産牛** 経産牛相場は高値安定。

出回りも弱く、ガリ系の出荷が多いと感じる。  
販売は、ホルス以上の肥育牛の相場が上昇しているため、代替えアイテ  
ムとしても、新規の問い合わせが増えてきている。パーツとしては赤身  
系、バラ系の引き合いが強く、季節的にもカタロースも強まっている。  
挽き材は極端な変動なく、定期定量の販売レベル。産地はコストが上  
がっており値上げ示唆。

# 左先生の畜産学研究NEWS

新聞報道は記者や地域の読者の姿勢で重み付けが異なります、共通の情報をどう解釈したかを知るの面白みですが、危うさもあります。幾つかの紙面を見て比較する理由の一つです。地域の情報はその住民の利害と繋がることもあります。日本の国中で起きた大規模自然災害への対応は種類や地域によって異なり、当事者は共通認識と共に他との比較をします、図らずも災害の大きさだけでなく地域の財政力も反映します。例えば北海道ではまだ災害からの復旧も不十分のまま冬を迎えることになり不安が募ります。平均値でものを考え、現場の実態判断を誤れば批判を浴びます。平均値なら公平か?それだけで住民は納得しません。多様な自然災害などへの対処に迫られる農業は常に自然相手の生産活動です。e-beef News59号の学術情報で現在入手分は以下の通りです。

## 1. 畜産技術#760,2018.9

### 研究レポート2: 和牛の哺育育成方法が枝肉切開面画像解析情報に及ぼす影響(撫年浩他、宮崎大)

母子哺育・草地利用と人工哺育・濃厚飼料給与の子牛育成効果を黒毛和種、日本短角種および褐毛和種牛の26ヵ月齢出荷時の枝肉画像情報で比較しました。黒毛和種肥育牛は自然哺育で枝肉重量や脂肪面積割合などが低下し、他の2品種では有意な低下はなく、哺育育成方法の違いは肥育結果に反映しませんでした。

## 2. 畜産技術 #761,2018.10

### 1) 研究レポート2: 食肉の光センシング技術とタンパク質変性の「見える化」(本山三知代、農食産研機構)

光センシングは対象が吸収する光から非破壊的に情報を得るもので、身近な例では近赤外光による飼料成分分析や牛肉のオレイン酸含量評価などがあります。海外では食肉の柔らかさ、官能特性、ドリップロスなどの

光センシングの研究が進められています。この技術で食肉タンパク質のペプシン消化による変性を見える化し、易消化性食肉製品や調理・加工法の開発などへの展開が、そして肉色や脂肪交雑などで光センシング技術を食肉のブランド化に活用できる可能性があります。

### 2) 研究レポート3: オーストラリアWAGYU牛肉に対するDNA鑑定法の適用(万年英之、神戸大院農)

日本の代表的肉用牛品種の黒毛和種はアメリカを経由して遺伝資源が流出し海外産Wagyuとして生産流通しています。日本の黒毛和種との偽装表示抑制のためにDNAマーカーを用いたオーストラリア産牛肉と国産牛肉を識別する技術が開発され、その有効性を検証しました。豪州産牛の特異的な対立遺伝子頻度などからシンガポール市場で販売されているオーストラリア産Wagyuの77.6%が豪州産で、オーストラリアWagyuへ混在する和牛ゲノムは30%以下と想像されました。

### 3) 国内情報2: 「CBSで和牛増頭と省力化-宮崎県綾町の優良事例からみる-」(篠田満、畜技協)

CBS(キャトル・ブリーディング・ステーション)は和牛繁殖牛の分娩・種付け、子牛の哺育・育成を集約的に、自治体が設置し、JAが運営する外部支援組織です。畜技協が和牛CBSの定着を目的とする宮崎県綾町の教育プログラムセミナーでは、母子預託や子牛預託により農家の投資抑制、分娩間隔の短縮、飼育頭数の増加などの効果が報告されています。

## 3. 日本産肉研究会第21回学術集会報告書

### シンポジウム「2020年東京オリンピック・パラリンピックの先を見据えて-赤身牛肉生産に各種認証制度を活用する-」

本誌で掲載した日畜124回大会の公開シンポジウムと同様の内容で、誌面の都合上解説は次号に掲載します。

# 国産牛 NEWS

## 日本の赤身牛肉生産とその流通 全4回シリーズ④ 弘前大学生命科学部 松崎正敏教授 (日本産肉研究会会長)

**Qビーマーケットの可能性**

**マーケティング調査**

1. アンケート調査  
1) 牛肉の消費は増加傾向にある  
約1000人以上の消費者にアンケート実施  
2) 消費額は 1000人に1人1ヶ月あたり1万円程度  
3) 消費頻度は 1000人に1人1ヶ月あたり1回程度

2. 牛肉の消費の増加傾向を踏まえて  
1) オンラインストア (EC) 展開 実現  
東京の赤身牛肉を積極的にオンラインで  
販売する。ECでは1kgあたり2000円/kgで販売し、  
2) 宅配サービスで消費者に届ける。平均1500円/kg  
で販売  
3) オンラインストア (EC)  
4) 実店舗とオンラインを併用して

○消費者の少ない地域に販売が難しい、特に肉用牛は好まない  
○販路の拡大・安全な牛肉がほしい  
○販路に配慮した流通システムはほしい。



**2050年問題...世界の人口が約1/3 (68億→91億人)に増加する2050年には、70%の食糧増産が必要になるだろう(FAO, 2009)。**

2050  
100%  
70%

It takes 100% more food, not 100% more land, to feed 10 billion people by 2050.

Farmer Gato, Karen Berra (2011)

**2050年問題へのEUの対応策**

... 農産家の活用

伝統的畜産からの生産物の質・量を高めつつ、環境負荷と生産コスト削減を図るための戦略

- Feed animals less human food
- Use regionally appropriate animals
- Keep animals healthy
- Adopt smart supplements
- Get quality not quantity ... "The focus should be on eating less, better quality meat"
- Talk practices to local culture
- Track costs and benefits ... Life cycle assessment, etc.
- Study best practice ... Global Farm Hubbers (GFH)

no one size fits all solutions

**Global Farm Platform (GFP)**

for optimization of grazing livestock production systems

The Global Farm Platform partnership brings together the University of Alberta (Canada), the University of Queensland (UQ), Kansas State University (KSU), Kansas Veterinary and Animal Science University (India), the Institute National de Investigation Agropastorales (INIA), Wageningen, the University of Leeds (UK), Massey University (New Zealand), Penn State University (USA), Queensland Research (QR), the University of Sydney (Australia), the University of Western Australia, the University of Wisconsin-Madison (USA) and Zhejiang University (China).

**GLOBAL FARM PLATFORM**

Fourth Sustainable Business Practice

**GFPに携わる人たちの考える持続可能な畜産のテーマ...**

放牧+肥料(糞)  
ヒトの食料生産と家畜飼料生産の統合、Marginal land 活用  
これからの畜産食品の課題(鶏・ブタも、ベジタリアン、ビーガン)  
アニマルライト・動物福祉  
Life-cycle assessment  
林業放牧  
Rural development  
国土保全  
畜舎疾病管理・人畜共通感染症  
従来の畜舎の能力評価  
Food wasteの飼料利用禁止(安全性確保:口蹄疫、BSE問題)

**GFPに携わる人たちが、あまり経験していないこと...**

生産性・肉質の向上  
畜い手

**国産優先GAP取組前編**

安全な環境を重視  
畜産者と消費者の連携を

**経済>環境**

**環境>経済**

**もう比べない  
違う物を作っているのだから**



内容を詳しく知りたい方は、データ送信しますので事務局までご連絡ください